

1. 整備予定地の選定

(仮称)芭蕉翁記念館事業計画検討委員会から第1次答申として示された3つの候補地について、それぞれのメリット及びデメリットに加え、厳しい市の財政状況の中で検討されている市庁舎並びに上野図書館の整備計画を含めて検討を行った結果、周辺の土地利用の課題があるものの、公共交通機関のアクセスに優れ、芭蕉ゾーンとして芭蕉翁関連施設との連携により中核施設としての位置づけができ、街なか回遊による賑わい創出への貢献が期待できることや市の厳しい財政状況を考慮した中で、既存の建物を活用すれば、施設整備に要する経費がかなり削減されること、また、複合施設ではなく単独での施設整備が望ましいことなど総合的に勘案し、本事業計画(案)において、(仮称)芭蕉翁記念館は、現在の上野図書館の建物を活用し、整備することとする。

また、芭蕉ゾーンにおける中核施設としての魅力を高める観点から、駐車スペースの確保等、周辺の土地との一体的な活用を図ることとする。

◇ 上野図書館周辺の施設等配置図



2. 整備予定地の概要

- 所在地：伊賀市上野丸之内40番地の3及び40番地の5
- 敷地面積：1825.50㎡
- 延床面積：1678.58㎡

〔	現上野図書館	1階：658.39㎡	〕
		2階：921.19㎡	
		3階：99.00㎡（機械室）	

- 用途地域：商業地域[建蔽率80%容積率400%] 用途制限なし
- 上野公園口から：550m、徒歩6分
- 芭蕉生家から：300m、徒歩3分

敷地面積に加え、芭蕉ゾーンにおける中核施設としての魅力を高める観点から、駐車スペースの確保等、周辺の土地との一体的な活用を図ることとする。

3. 施設整備の目標年次

(仮称)芭蕉翁記念館の整備については、2019（平成31）年度末に完了することを目標とし、具体的な整備に向けての事業プロセス等については、(仮称)芭蕉翁記念館の整備に関連する市庁舎並びに上野図書館の整備計画の進捗状況を考慮し、決定することとする。

4. 施設整備の概算事業費

現時点での上野図書館の建物を活用した施設整備の概算事業費は、約900,000千円（周辺土地活用を含む。）が想定される。ただし、今後、検討される展示活動計画の内容や上野図書館の整備に向けた詳細な調査などにより、大幅な事業費の変動も予想されるが、合併特例債や芭蕉翁顕彰事業基金の活用も踏まえ、出来る限り、整備費の削減に努めることとする。

《参考》

(仮称)芭蕉翁記念館基本計画での建設予定地「市立桃青中学校跡」で新築した場合を想定した概算事業費は、類似施設における平均値等による試算として1,550,000千円となっている。

1. 事業計画の考え方

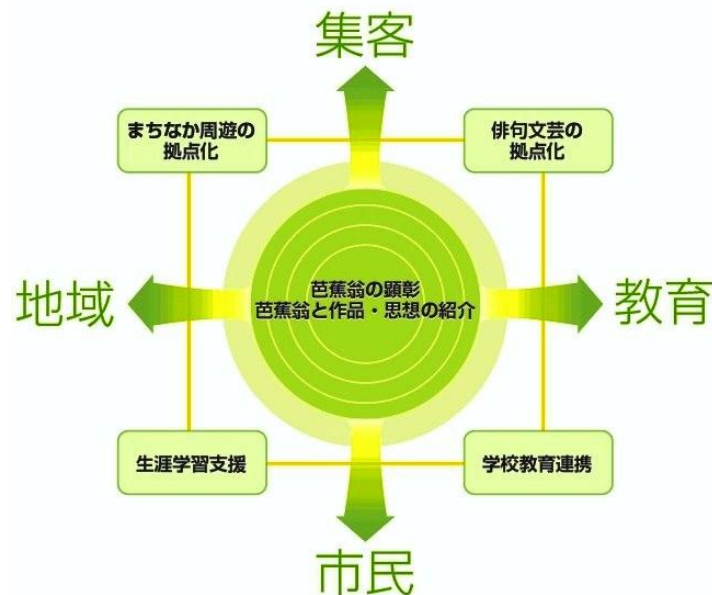
芭蕉翁の作品とその心を通じて、
芭蕉文学と俳句文芸の継承・啓発を推進するとともに、
ひと・地域づくりの拠点となる記念館の構想

芭蕉翁の生誕地である伊賀市において、その業績をたたえ、かつ顕彰し、芭蕉文学と俳句文芸の一大拠点として後世に継承する記念館をめざす。

事業展開においては、芭蕉翁の作品を通じて、その心を理解し、芭蕉翁への尊敬と親しみの気持ちを深めるなかで、人々の交流を促し、子どもたちの人としての感性を育成することを通じて、生涯学習の一翼を担うことをめざす。

来館者自身の再発見や発信ができる場を提供し、ひとの育成と地域づくりの拠点となるとともに、「まちなか周遊」の推進力を高めることをめざす。

また、貴重な資料・史料の適切な収集・保存と公開を行うことで、研究者の支援施設として中心的な役割を果たすことをめざす。



■ まちなか周遊の拠点化

記念館を発着点として、市内および周辺の史跡へと人々をいざない、まちなかを周遊して楽しむという仕組みづくりにより、伊賀市全体の活性化をはかる。

■ 芭蕉文学と俳句文芸の拠点化

芭蕉文学と俳句文芸を継承する事業をいっそう拡充しながら、連句、近現代俳句、外国語俳句に至るまでの幅広い俳句人口の拡大をはかる。

■ 生涯学習支援

芭蕉翁および芭蕉文学と俳句文芸をもって、市民参加の機会を増やす。作句活動のみならず、ボランティアガイドや学習会、子どもたちの学習サポートなど、多様なメニューでの生涯学習の活動支援をはかる。

■ 学校教育連携

子どもたちにわかりやすい記念館の事業を通じて、芭蕉文学と俳句文芸の学習機会を創出し、子どもの感性の育成をはかるとともに、記念館外での俳句文芸の学習サポートをはかる

2. 事業計画の方針

自然と一体となる、芭蕉翁の「心」を感じ、
自分自身の再発見・発信のきっかけづくりと、
心と体の癒しの場づくりのための多面アプローチ

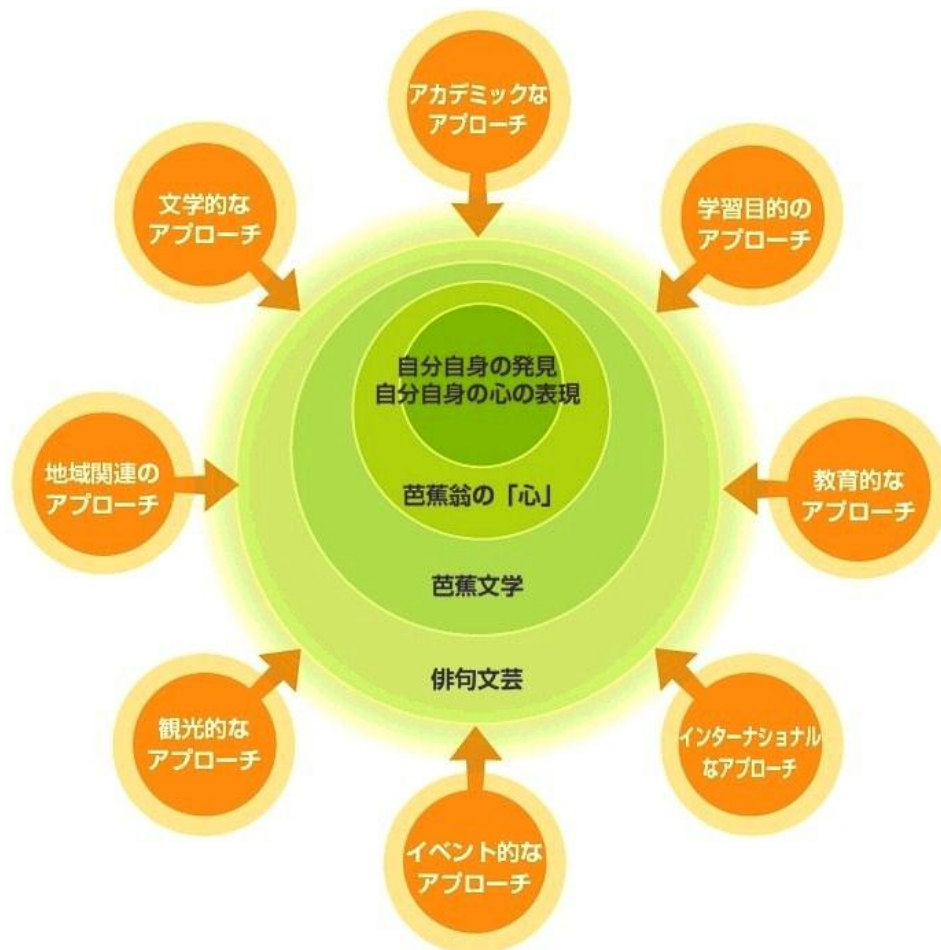
芭蕉翁は、自然から人としての生き方を学び、自然と一体になることをめざし、俳諧の新しいあり方を求めて、画期的な“蕉風”をうち立てた。

芭蕉翁や俳句文芸にすでに親しんでいる人も、まったく知らない人も、どの時代においても変わることのないこの芭蕉翁の心に、触れ、知り、気づき、学び、自然と向き合い、自分自身を見つめなおし、自分自身の人としての再発見できるきっかけづくりをめざす。

さまざまな角度・視点から、芭蕉翁の心を体感し、来館して得たものを来館者それぞれの生活の中に活かせるとともに、その心から生まれる“ことば”を、俳句という形で来館者自身が発信できる場を提供する。

来館者それぞれが楽しさを味わえる場の提供を記念館の事業計画の基本的な方針とし、わかりやすく知的娯楽性の高い多様なプログラム等の提供を、事業計画方針の大きな要素として考える。

事業展開においては、活動計画のみならず、建築、環境等、すべてにわたって「心と体の癒し」を提供できるようつとめる。



3. 事業計画の展開方法

間口は広く、内容は深く多様な来館者に応え、
一人でも多くの利用を促し、
ファンづくりにつながる事業展開を行う

記念館への来館者は、多くの市民や学校での校外学習の児童生徒、観光客から俳人や芭蕉研究者まで、幅広い層が想定される。来館者の各層においてターゲットとする指向はそれぞれ異なるが、どの指向であっても興味をもって観覧でき、かつ、日常的に利用できるよう、当初よりできるだけ幅を広く想定した事業計画をめざす。

芭蕉翁や俳句文芸にそれほど通暁していない人には、面白い仕掛けや分かりやすい表現で理解をすすめ、一方、芭蕉翁や俳句文芸に高い関心をもつ来館者には、さらに深い理解や新規の発見を促す工夫につとめる。さらに研究者や俳人には、蓄積した本物の資料や研究書籍への自由なアクセスができる、といったように、どの段階の来館者にも存分に楽しめ、また役立てられるような、意欲的な記念館をめざす。これにより、本施設のファンを生み出し、リピーターを増やし、話題性を高め、どこにもない、いつも新しい何かに出会える「躍動的な記念館」を目標とする。

